

島田市の教育理念

「地域総ぐるみで進めましょう ^{ゆめいく} 夢育・^{ちいく} 地育の花咲く 島田の教育」

—学校・家庭・地域が一体となって、理想とする教育を目指す—

○ 理念実現のための基本的方向性（5項目）

1. 地域が主体性を持って教育に参画し、学校と協働して共に教育を支えるしくみを整える。
2. 地域の文化や伝統を継続するために、地域が主体性を持って教育機能を分担するしくみを整える。
3. 就学前からの家庭教育を地域全体で支えるしくみづくりを進める。
4. 今後必要とされる学校再編については、適正規模や学校施設の老朽化の状況などを考慮するとともに、地域の生活や文化・伝統の存続及び活性化を島田市全体で支えるという前提のもとに、これを検討していく。
5. 以上を実現していくため、学校・地域それぞれにおいて、組織のあり方を必要に応じて見直し、力を集約して改善に当たる方策を検討し、島田市（市長部局）と島田市教育委員会とは協力してこれを支えていく。

○ 理念実現に向けた手立て（4項目）

1. 将来の夢を育て、夢によって成長する子供を育む「夢育」の中核的活動として、英語教育や先進科学技術教育・ICTの活用などを推進し、これらを学校の諸活動と関連づけることで、世界的な視野をもち市民性豊かな子供を育てていくための教育を充実させる。
2. 地域に根ざして成長し、自ら地域を育てていく子供を育む「地育」の中核的活動として、就学前から学齢期までの成長プロセスを通して、地域の特色・魅力づくりに関係していくための活動を導入し、地域・家庭・学校それぞれの役割を明確化し、これを足かぎりに子どもの成長環境の改善を図る。
3. 今後、学校教育に課されることが予想される「社会に開かれた教育課程」、「アクティブ・ラーニング」、「カリキュラム・マネジメント」、「コミュニティ・スクール」、「チーム学校」、「小中一貫教育」等の課題に対し、個別に対応していくのではなく、これらの課題を有機的に関係づけ、核を形成して対応していく。
4. 児童生徒の教育環境充実の観点から学校再編を検討し、学校建築の工夫も含めて学校配置の最適化を模索すると同時に、当該地域の文化・伝統の維持や地域活性化を図っていく。

初倉地区の小学校再編について

1 島田市教育環境適正化検討委員会からの提言（平成30年 9 月）

＜再編方針案＞

早期再編を望む保護者が多い湯日小学校を、先行して初倉小学校と統合することが望ましいと考えます。その際、教職員の加配など統合に伴うきめ細やかな対応に配慮し、湯日地域を「子育て・教育モデル地区」（仮称）として活性化していくため、島田市教育委員会、島田市（市長部局）、地域との間で、学校の跡地利用も含めた話し合いを進めていく必要があります。

将来的には、初倉南小学校を現在の初倉小学校に統合した上で、初倉中学校も含めた準一体型の小中一貫教育校とすることも検討すべきことと考えます。この場合、小中学校とも中規模の学校となり、特色づくりは比較的やりやすくなります。

ただし、現時点では、初倉小学校と初倉南小学校の規模に大きな違いはなく、再編の是非についての議論も成熟していません。加えて、3小学校を同時に統合するには初倉小学校の増築が必要となり、これらの点も勘案した上で地域住民の意向を踏まえた慎重な議論を重ねていくことが必要です。

2 提言を受けての教育委員会の検討事項

＜3校同時統合＞

提言を受けた後、市長と教育委員による「総合教育会議」や教育委員会定例会において、3校同時統合について、初倉南小学校区の保護者や地域住民の考えを聞くことが必要であるとの意見を受け、同学区を対象とした、統合に対する意向を聞くための意見交換会を開催しました。その際に、具体的な時期として平成34年度（2022年度）統合案を示して意見を聞くこととしました。

- ①平成30年12月13日 初倉南小学校・・・保護者対象
- ②平成30年12月17日 初倉公民館・・・地域住民対象
- ③平成31年1月19日 初倉南小学校・・・保護者及び地域住民

初倉南小学校区の小学2年生以下の子供の保護者へ行ったアンケートでは、半数が3校同時統合に反対でありました。意見交換会の席上においても、以下のような意見がありました。

- ・初倉小学校への登下校の距離が延びることによる交通安全等の不安
- ・現在のクラス数が各学年2クラスあるため初倉南小は統合不要
- ・学校施設の充実が必要

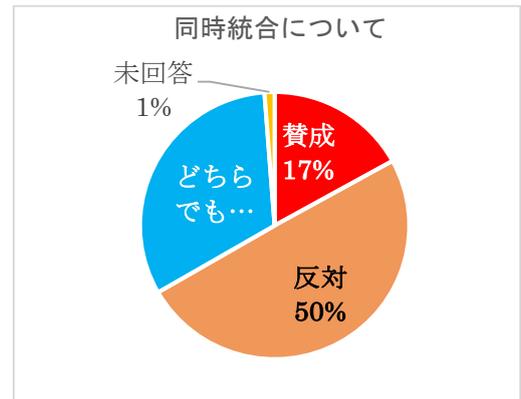
湯日小学校区においては、平成31年3月9日に初倉西部ふれあいセンターにおいて保護者及び地域住民の方との意見交換会を行いました。初倉小学校との早期の再編を望む保護者が多数いる一方で、地域から子供がいなくなることにより地域の活力が失われるのではないかと不安から、再編に慎重な御意見の方もいらっしゃいました。

保護者アンケートの結果について（H30.12実施）

※アンケートの数字は、いただいた回答をそのまま載せているため、合計数に差が生じています。

①回答者数	
初倉南小（2年生以下）	92
保育園等	73
計	165

②3校同時統合について	
賛成	28
反対	82
どちらでもよい	53
未回答	2



③平成34年度の同時統合について

（②で賛成又はどちらでもよいと回答した方）

ちょうどよい	16
早すぎる	9
遅すぎる	3
わからない	51
未回答	2

＜再編の時期(H34)についての意見＞

- ・子供たちが過ごす教室や校舎が整い、各学校のすりあわせが充分に行われてからの統合が良い。
- ・3校同時は、湯日小以外の学校の児童数が減ってからも良い。
- ・学校統合による影響の洗い出しと対応策を考えるのに3年は短い。PTA 役員など学校生活と直接関係ない部分について話し合いや検討が必要な事柄がたくさんある。

④3校同時統合に反対の理由等（②で反対と回答した方） ※その他へはどちらでもよいとした方の回答を一部含む。

初倉小・湯日小が先行して統合	19
初倉小と湯日小だけの統合	57
その他	12

＜主な反対意見＞

- ・1クラス当たりの人数が増え、学習面、生活面において、先生が目どころまで届くか不安
- ・現状の初倉南小学校で困っていないため統合のメリットが不明
- ・初倉南小学校の1学年が1クラスになってしまう児童数になってからが良い
- ・登下校の距離や通学時間が長くなること、交通量が多い道路での通学に不安
- ・体育館などの施設が狭いように感じる（統合後）ため、施設整備が整ってからが良い
- ・統合の目的が不明
- ・小中一貫教育のメリットがわからない。同じ場所に小・中があるわけではないのでメリットは少ないのではないかと。

初南小学区地域住民アンケートの結果について（H30.12.17実施）

①回答者数	
井口16 南原16 岡田3 月坂3 その他1	計39

②3校同時統合について	
賛成	18
反対	9
どちらでもよい	9
未回答	3

③平成34年度の同時統合について

ちょうどよい	11
早すぎる	3
遅すぎる	2
わからない	11

④再編に当たって重視すべきこと（複数回答）

地域文化の継承	5
地域住民と子供のふれあい	9
学校行事	3
地域の拠点としての教育施設の維持	12
学校施設整備の充実	18
特色のある教育	7
子供同士の切磋琢磨	19
小中の連携	14
登下校の安全・利便性	30

⑤3校同時統合に反対の理由等

- ・初倉南小の人数が1クラスに近くなってからでよい。
- ・子供の数をみると統合は必要ない。
- ・もっと慎重に協議してから進めてほしい。
- ・3校同時でなくてよいと思う。
- ・湯日小と初倉小の統合はやむを得ないと思うが、3校同時統合についてはもう少し地域住民の意見を聞いたほうがよい。

初南小学区保護者及び地域住民アンケートの結果について（H31. 1. 19実施）

①回答者数

井口 16 南原11 岡田13 月坂5 その他2 未記入1 計48

②初倉南小学校の統合について

H34の3校同時に賛成	10
初倉小と湯日小が先	15
反対	13
その他	8
未回答	2

③再編に当たって重視すべきこと（複数回答）

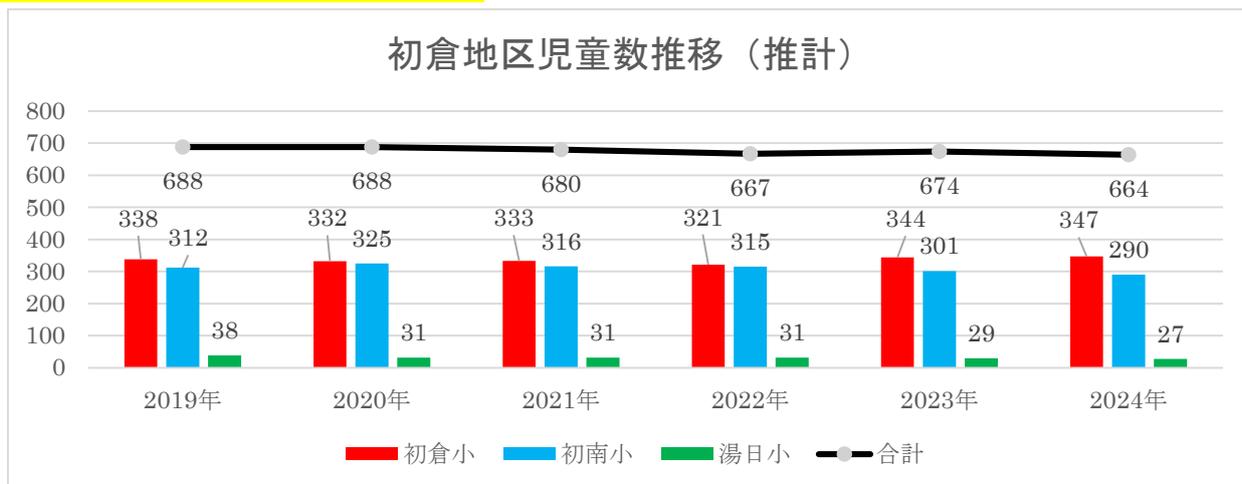
地域文化の継承	7
地域住民と子供のふれあい	10
学校行事	8
地域の拠点としての教育施設の維持	17
学校施設整備の充実	23
特色のある教育	13
子供同士の切磋琢磨	15
小中の連携	12
登下校の安全・利便性	34
未記入	1

湯日小学区保護者及び地域住民アンケートの結果について（H31. 3. 9実施）

①回答者数	
湯日小学校の児童（未就学児を含む）の保護者	16
湯日自治会の方（保護者以外の方）	8
未記入	1
②湯日小学校の統合について	
賛成	19
反対	3
その他	2
未記入	1
③再編の方法について（②で賛成のうち）	
3校同時統合	3
先行して湯日小と初倉小、その後初倉南小を統合	7
湯日小と初倉小の統合	9
④再編の時期について	
平成34年度に3校同時統合	3
平成34年度に初倉小と湯日小	5
平成34年度以降に初倉小と湯日小	3
平成34年度では遅すぎる	6
わからない	2
⑤再編に当たって重視すべきこと（複数回答）	
地域文化の継承	6
地域住民と子供のふれあい	10
学校行事	3
地域の拠点としての教育施設の維持	6
学校施設整備の充実	5
特色のある教育	7
子供同士の切磋琢磨	15
小中の連携	3
登下校の安全・利便性	16

3 初倉地区の児童数の推移

初倉地区の児童数の推移について



（平成 30 年 4 月 1 日時点の住民基本台帳登録人数からの推計）

4 小中一貫教育

9 年間の指導の一貫性を図るため、教員間の情報交換を密に行い、小中学校間の円滑な接続を目指して取り組むものです。

小中一貫教育により、小中学生が一緒に活動したり、教員が相互にそれぞれの学校へ出向いて指導したりすることにより、児童生徒の意欲が高まり、より質の高い教育を目指すものです。

●これまでの取組

「豊かな心」を育てること⇒「夢育・地育」の取組（初倉地区を研究指定）

夢育・地育の効果を引き出すために小中連携を進めてきた。⇒一定の成果あり

5 スクールバス等について

自宅から小学校までの距離が 4 km 以上、中学校までの距離が 6 km 以上の場合、スクールバス等の対応を検討していきます。

バス停の場所や運行コースなど具体的な運行方法については、地域の実情に合ったより良い方法を検討していきたいと考えています。

6 再編後の学校施設跡地の利活用について

< 学校施設跡地利活用検討委員会 >

- ・副市長を中心とした市の幹部職員による検討委員会を設置し、検討していきます。
- ・跡地の利活用については、地域住民によるワーキンググループによる検討など、十分な意見交換を重ね、方向性を決めていきます。

< 参考活用例 >

- ・分校舎機能 ・放課後児童クラブ機能 ・コミュニティルーム機能
- ・地域スポーツクラブ機能 ・コミュニティ・ファーム機能
- ・コミュニティ食堂機能 ・テーマ図書館機能 ・子育て世帯向け住宅地 など

地域にとって、小学校は大きな資源であると十分に承知しておりますが、その点を踏まえても、将来的な教育環境を維持していくための学校再編であることを御理解いただきたいと思います。

地域の皆様には、小学校が移っても引き続き、新しい小学校への御協力をお願いするとともに、これまでと同様、地域の子供として一緒に育てていただきたいと思います。

●初倉地区学校別学年別児童数推計【学区内住基実数値】

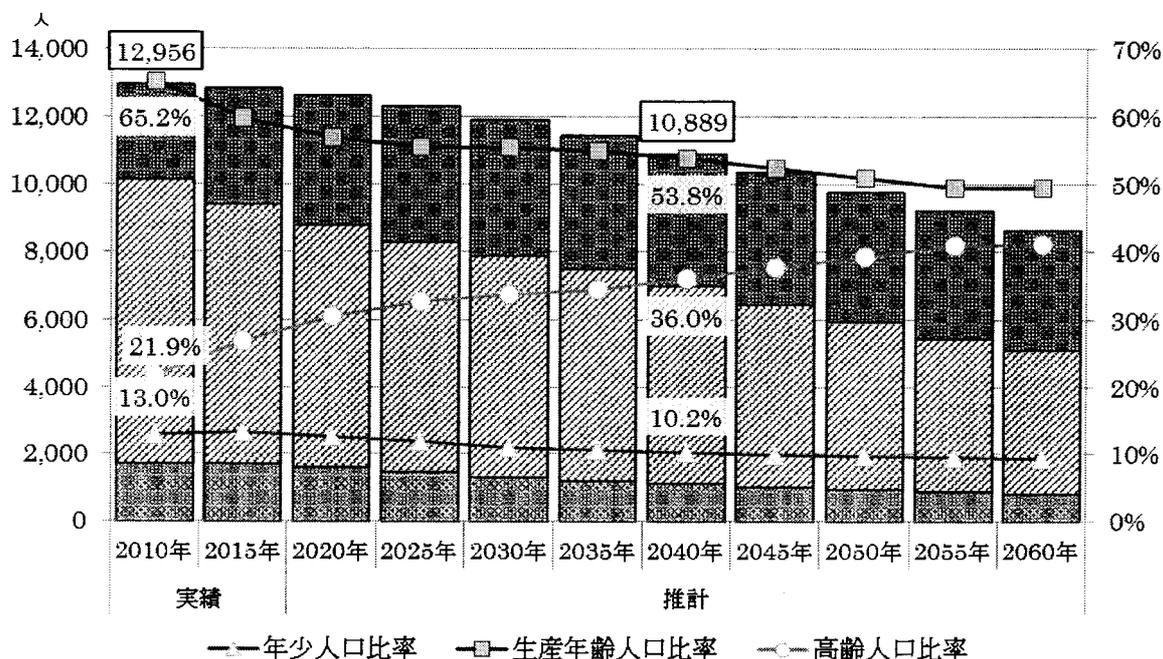
H30. 4. 1 現在

年度	学校名	児童数								
2019 (H31)		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支	計	合計
	初倉小	65	55	48	56	51	49	14	338	688
	初倉南小	43	52	59	51	56	51	—	312	
	湯日小	5	4	7	6	4	12	—	38	
	計	113	111	114	113	111	112	14		
クラス数	(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	(3)		(27)	
2020		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支	計	合計
	初倉小	57	65	55	48	56	51	(10)	332	688
	初倉南小	64	43	52	59	51	56	—	325	
	湯日小	5	5	4	7	6	4	—	31	
	計	126	113	111	114	113	111	(10)		
クラス数	(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	(3)		(27)	
2021		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支	計	合計
	初倉小	52	57	65	55	48	56	(10)	333	680
	初倉南小	47	64	43	52	59	51	—	316	
	湯日小	4	5	5	4	7	6	—	31	
	計	103	126	113	111	114	113	(10)		
クラス数	(3)	(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	(3)		(26)	
2022 (H34)		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支	計	合計
	初倉小	44	52	57	65	55	48	(10)	321	667
	初倉南小	50	47	64	43	52	59	—	315	
	湯日小	6	4	5	5	4	7	—	31	
	計	100	103	126	113	111	114	(10)		
クラス数	(3)	(3)	(4)	(4)	(4)	(4)	(3)		(25)	
2023		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支	計	合計
	初倉小	71	44	52	57	65	55	(10)	344	674
	初倉南小	45	50	47	64	43	52	—	301	
	湯日小	5	6	4	5	5	4	—	29	
	計	121	100	103	126	113	111	(10)		
クラス数	(4)	(3)	(3)	(4)	(4)	(4)	(3)		(25)	
2024		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支	計	合計
	初倉小	58	71	44	52	57	65	(10)	347	664
	初倉南小	41	45	50	47	64	43	—	290	
	湯日小	2	5	6	4	5	5	—	27	
	計	101	121	100	103	126	113	(10)		
クラス数	(3)	(4)	(3)	(3)	(4)	(4)	(3)		(24)	

※特別支援学級の人数は、各年10人3クラスと推計している。(合計人数の外数)

【初倉地区】

■人口及び年齢3区分別人口推計



■推計結果

		総人口 (人)	年少人口 (人)	生産年齢 人口(人)	高齢人口 (人)	年少人口 比率	生産年齢 人口比率	高齢人口 比率
実績	2010年	12,956	1,684	8,441	2,831	13.0%	65.2%	21.9%
	2015年	12,856	1,705	7,695	3,456	13.3%	59.9%	26.9%
推計	2020年	12,639	1,583	7,194	3,862	12.5%	56.9%	30.6%
	2025年	12,309	1,456	6,832	4,020	11.8%	55.5%	32.7%
	2030年	11,892	1,292	6,585	4,014	10.9%	55.4%	33.8%
	2035年	11,417	1,199	6,275	3,944	10.5%	55.0%	34.5%
	2040年	10,889	1,110	5,858	3,921	10.2%	53.8%	36.0%
	2045年	10,340	1,025	5,423	3,892	9.9%	52.4%	37.6%
	2050年	9,782	947	4,985	3,851	9.7%	51.0%	39.4%
	2055年	9,208	875	4,560	3,773	9.5%	49.5%	41.0%
	2060年	8,638	810	4,280	3,548	9.4%	49.5%	41.1%

初倉小、初倉南小、湯日小学校の再編について

1 学校再編のメリット・デメリット

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ・適正規模の集団により、多様な考えに触れ、協力し合い、切磋琢磨することで、新学習指導要領で言うグローバルな力を育てる教育が充実する。 ・児童生徒の人数が多いことで、行事等の教育活動が活気に溢れる。 ・人間関係を配慮した多様なクラス替えができ、毎年気持ちを新たにできる。 ・専門的な教職員の配置が可能になり、レベルの高い指導が受けられる。 ・保護者が多いことで保護間の交流が広がり、多様なPTA活動が可能になる。 ・小規模校では予算的に難しい行事等を企画したり、著名な講師を呼んだりすることができ、一つの事業で多くの児童生徒が効果を楽しむことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動の中で、一人一人が活躍する場や機会が減少する。 ・同学年でも、深い関わりが持てない児童生徒がいるなど、人間関係が希薄になることがある。 ・教職員1人に対しての児童生徒の人数が増える。 ・通学距離が長くなりスクールバスや地域との連携など登下校の安全対策が求められる。

2 小中一貫教育のメリット・デメリット

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ・特色のある教育課程を、小学校から中学校まで一貫して組むことで、より高い教育的成果を上げることができる。 ・小学校から中学校への接続が円滑に行うことができ、中1ギャップが解消されるなど、不登校の減少につながる。 ・中学校の教員が小学校高学年を教えるなど専門性の高い授業を行うことで、小学校への教科担任制の導入も検討できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テスト点を上げるためだけの小中一貫教育ではないため、目に見えて成果を実感しにくいところがある。 ・校舎一体型の小中一貫教育ではないため、交流授業や教員の兼務などについては、教員免許や学校間の移動の関係で実際は限度がある。

